

訪問看護で注射器等を安全に廃棄できる携帯用医療廃棄物容器の開発

看護学科 福井幸子

研究背景・目的

現在、医療機関を対象に販売されている携帯容器(以下、【既製品】)と訪問看護用で開発した【試作品2015】2号とについて、針刺し予防効果や操作の簡便性、経済性、耐久性、密封性、常用性の効果を比較し、訪問看護に特化した容器の特徴を明らかにする。

研究方法

- 対象: 訪問看護師(以下、看護師)9名
- 期間: 平成28年7月~8月
- 方法: 同一の看護師が訪問先で【既製品】【試作品2015】2号(写真1)を使用し、ステーションに帰着後、調査票に回答した。【既製品】は「職業感染防止のための安全対策製品カタログ(第5版)」(職業感染制御研究会発行)で紹介している鋭利器材専用廃棄容器から、20cc注射器収納可能な最少容器で、形や容量が異なる4種類の容器を研究者が選定し、その中から調査対象者が1種類選んで使用した。調査票の質問は14項目で、選択肢、及び自由記述で回答する内容とした。その内、総合評価の6項目については、「大変良い、良い、あまり良くない、良くない」に、4点~1点を当て、記述統計し、Wilcoxonの符号付き順位和検定で分析した。

研究成果

総合評価6項目の中で平均点が最も高かった「耐久性」は、【既製品】が3.3点、【試作品2015】2号が2.6点だった(図1)。平均点が最も低かった「常用性」は、【既製品】が2.3点、【試作品2015】2号が1.7点($p=0.046$)だった。「針刺し予防効果」の平均点は、【既製品】が3.0点、【試作品2015】2号が2.5点で($p=0.046$)、「操作の簡便性」3.0点、1.9点($p=0.024$)と、いずれも【既製品】の評価が高かった。しかし、【既製品】の中には蓋の開閉がしづらさから軽めに閉じたケースもあり、中身の廃棄物が漏出する危険性や廃棄時に翼状針が跳ね返ってくるなど針刺しの危険性が考えられた。【試作品2015】2号については、「抜針したらずぐストップメイトに刺せる、安心感」等の肯定的意見が複数あった。今後、調査結果を基に改良した【試作品2016】3号での調査を計画し、訪問看護を含む在宅医療の場で活用できる容器開発と商品化をはかり、針刺し予防に貢献していきたい。

【試作品2015】2号



【既製品】



写真1. 調査で使用した携帯用医療廃棄物容器

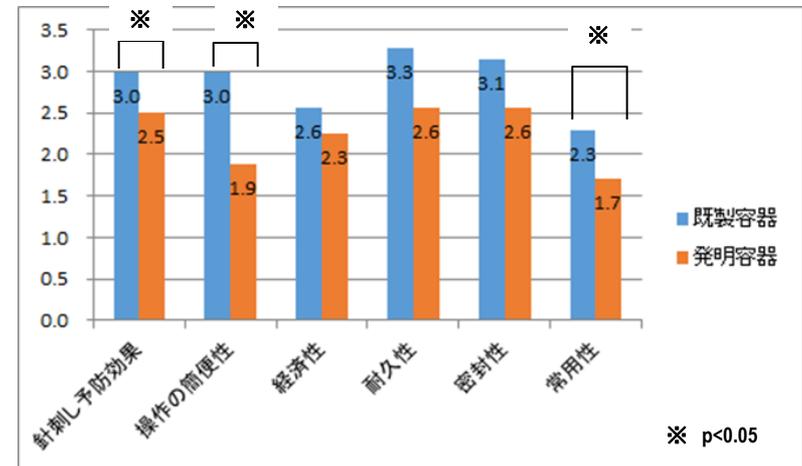


図1. 携帯用医療廃棄物容器使用後の総合評価